

学校教育



習志野市ご当地キャラ
「ナラシドム」

令和4年6月22日 発行

No. 128

Narashino Municipal
Board of Education

だより

発行・編集 習志野市教育委員会
☎ 047-451-1151 (代表)

習志野市ホームページ
学校教育だよりはこちら
から御覧いただけます

令和4年度 運動会

習志野市立津田沼小学校



一致団結津小っ子魂のとおり力を合わせて、魂を込めて戦い抜けた。白組は負けたが、みんなが頑張っていたのが心に残った。この先も6年生としてみんなを引っ張っていきたい。(白組団長：松本 泰知さん)



みんなで取り組み、楽しい運動会になった。協力すると素晴らしいものになることがよくわかった。今後、一人だけでなく、みんなで協力して行動していきたい。(紅組団長：児玉 アンナさん)

児童生徒の「きらりと光る」場面が満載でした！

コロナ禍での教育活動は3年目となり、感染症対策を十分に行いながら、少しずつコロナ前の教育活動が戻ってきました。運動会や体育祭においても、昨年度に比べ種目数を増やしたり、保護者の参観を緩和したりするなど、児童生徒が認められる機会を増やす工夫が随所に見られ、コロナ前の運動会・体育祭を経験していない児童・生徒にとっては、とても新鮮な体験となり、最高の思い出となるような運動会・体育祭を行うことができました。

本号では運動会・体育祭を含めた各学校での工夫溢れる教育活動の一端を紹介いたします。

《第 1 2 8 号》

テーマ 「習志野の教育」

《目 次》

令和4年度運動会	… 1
令和4年度運動会・体育祭	… 2
ウィズコロナの視点を踏まえた教育活動	… 3
各校の行事等紹介	… 4
GIGA スクール推進プロジェクト	… 5
教育相談・フレンドあいあいの取り組み	… 6
特色ある教育活動紹介～第四中学校～	… 7
習志野高校ニュース・教育長コラム	… 8

目標に向かって邁進した運動会・体育祭

向山小運動会

5月14日(土) 第七中 5月28日(土) 第六中
6月 4日(土) 向山小

入場門



Supreme memories
～Mela!～

楽しく表現!

今年の運動会を四字熟語で表すとすれば「一念通天」です。「一念通天」の意味は「どんなことでも、ひたすら信じて念じ続ければ、必ず天を通じて成し遂げられる」という意味です。僕は最初組体操のえんとつが全然できませんでした。しかし家で毎日えんとつの練習をしていたら、学校での練習でついでできるようになりました。(6年 大瀬 貴稔さん)



白熱の紅白リレー!

今年の運動会を漢字一文字で表すとすれば「熱」です。なぜなら今年の運動会は自分にとって最後の運動会で、しかも最後の最後まで結果がわからない白熱した接戦だったからです。またよく自身も応援団としてとても熱くなれました。最後の運動会、応援賞を取りたい一心で応援しました。結果応援賞を獲得することができました。(6年 高橋 幸久さん)

第六中体育祭

私は体育祭で実行委員をやりました。3年連続実行委員でしたが、今年は全学年でやる体育祭で、分からないことが多くありました。しかし、他の実行委員と協力し、準備や片付けの時も仲良く、楽しく活動ができてとても良い思い出になりました。体育祭で一番の思い出に残ったことは、クラスで行った大縄跳びです。円陣を組み、男女ともにベストを尽くし、1位を取ることができました。最初は、どうなるか不安だった大縄跳びも、練習を重ねていくことで、とても成長するのだと分かりました。体育祭を成功させることができたのは、応援団や先生方が色々と考えてくれたり、前日に水抜きを手伝ってくれた人達がいったりしたおかげなので、感謝しています。体育祭で学んだことをこれからのことに生かしていきたいです。(3年 川崎 莉奈さん)



一致団結、応援合戦!



心を合わせた大縄跳び

第七中体育祭



全力を誓い、体育祭スタート



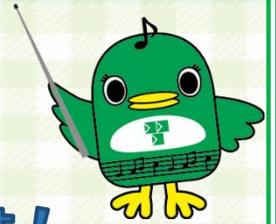
勝利目指して力の限り!



最後の決戦! 棒通し

私は、体育祭実行委員長を務めました。体育祭練習が始まって、まだ間もないころは、体育祭や体育祭練習を上手く運営できるか、全校生徒や先生方の前で堂々と立って話ができるかなど、不安な気持ちがたくさんありました。それでも、体育祭実行委員のメンバーと協力し合いながら活動していくことで、自然と不安な気持ちは無くなっていき、私には頼れる仲間がいることを改めて実感しました。体育祭当日は、全校生徒がそれぞれの競技や発表に全力で取り組み、楽しんでいる姿が見られました。今まで、体育祭を楽しんでもらえるようにと準備をしてきたため、その姿を見たときは、とても嬉しかったです。私自身が目標にしていた“体育祭を大成功させる”ことは、達成できたのではないかと思います。(体育祭実行委員長 3年 大道寺 ころろさん)

鹿野山セカンドスクール



ここでしか味わえない自然体験は
習志野の特色ある教育活動のひとつです！

今年度も小学校4、5、6年児童を対象として日帰りの「鹿野山セカンドスクール」を実施しています。セカンドスクール事業は「豊かな自然環境のもと、集団宿泊学習や野外活動を通して幼児・児童の心身の保持増進を図る」ことを基本方針とし、鹿野山少年自然の家でハイキングやオリエンテーリング、火起こし体験や竹工作等、様々な自然体験活動を実施しています。豊かな自然体験活動は心身の保持増進だけでなく、豊かな人間性や価値観の形成、問題発見や問題解決能力の育成など、様々な効果が期待されています。

藤崎小 鹿野山セカンドスクール（5月11日）



大尽山オリエンテーリング



オリエンテーリングや火起こし体験を通して、仲間と協力することの大切さを体験することができました。（6年 高柳 風花さん）

普段はできないオリエンテーリングや火起こし体験など特別な体験をさせてもらって楽しかったです。（6年 薬師寺 風我さん）



火起こし体験



火起こし体験では、学校でできないことを体験しました。火をつける大変さや難しさを自分の体で知ることができました。（6年 加藤 千花子さん）

教室では味わうことのできない体験ができました。セカンドスクールで学んだ「協力」の姿勢を卒業に向けて高めてほしいです。（6年担任 河野 正則先生）



特連スポーツ交歓会



離れていても、心はひとつ！

令和4年5月24日（火）、3年ぶりにスポーツ交歓会が行われました。

今年度は感染症予防対策として、東部体育館と袖ヶ浦体育館の2会場に分かれて実施。開会式をオンライン中継で繋ぐなど、新たな形での運営となりましたが、2つの会場の児童・生徒は離れていてもつながりを感じつつ、交流を深めました。



東部体育館



袖ヶ浦体育館

オンライン中継中！みんな真剣に聞いています！

千葉県知事の学校視察

制限緩和に向けた確かな一歩

令和4年5月30日（月）、熊谷 俊人千葉県知事が、谷津小学校の視察を行いました。「ウィズコロナ」時代を迎え、学校ではどのような形で教育活動が行われているのか、授業、給食の時間を参観されました。

少しずつ制限を緩和している状況を確認した熊谷知事は、「今まで必要以上にきちめていた学校活動を着実に取り戻している。」と話しました。

音楽の授業を参観中



【視察された活動】

- 第5学年「外国語」
 - ・対面でのコミュニケーション活動
- 第4学年「音楽」
 - ・集団でのリコーダー演奏
- 給食
 - ・席を対面にして黙食

米作り体験 ～実籾小5年生～



「実籾郷の会」の皆様にご協力いただきました！

5月9日（月）、実籾小学校の5年生は、学校の水田で田植え学習を行いました。毎年5年生が、総合的な学習の時間の「米作り」と社会科「米作りのさかんな地域」の学習を関連させ、地域の「実籾郷の会」の方々に御指導をいただきながら、1年間かけて育てていきます。今後は、水の管理をしながら、稲の育ち方を観察し、秋には稲刈り、脱穀を行って収穫します。今年はどれくらい収穫できるのか、児童はとても楽しみにしています。



元気な稲を受け取って、



教えてもらいながら、いざ田植え！

田んぼの中に入ると、ものすごく冷たくて、びっくりしました。私の家の近くに「郷の会」の田んぼがあり、以前はそこで田植えの体験をさせてもらっていたので、今回も楽しくできました。でも農家の方は大変な苦勞をして私たちにお米を届けてくれているのだなと思いました。田植えを通して、米作りの大変さに改めて触れたので、これからは農家の方に感謝して、御飯を残さず食べます。（5年 野崎 彩藍さん）

修学旅行 ～第一中3年生～



第一中学校では、5月7日（土）～9日（月）に修学旅行を実施しました。

新型コロナウイルス感染拡大の影響を受け、奈良・京都を目的地とした修学旅行は実に3年ぶりの実施です。

東京駅で行われた合同出発式に参加し、メディアの取材を受けました。



東京駅での合同出発式に参加

修学旅行中の「すごく楽しい」、「帰りたくない」などのような会話を聞くと、私一人で作り上げてきたわけではありませんが、実行委員として、準備等を頑張ってきてよかったと思いました。（中略）コロナの影響で行くことができなかった先輩方もいるなか、本来の形ととても近い状態で行くことができ、この裏にはたくさんの方の努力と協力があってからこそだと改めて感じられるよい修学旅行でした。（3年 原 悠暖さん）

教育委員会顕彰授賞式 - 第四中 -

習志野市立第四中学校吹奏楽部に所属する稲澤 彩葉さん、佐多 悠さん、財津 美音さん、長瀬 咲さんの4名が、第45回全日本アンサンブルコンテスト中学校の部において銅賞を受賞した功績を讃え、教育委員会顕彰の授賞式が行われました。

授賞式の懇談の時間には、コンテスト当日、地震の影響で交通手段が滞り、会場へ辿り着くまでの苦勞について話題となりました。

多くの困難な状況を乗り越え、全国の舞台で輝かしい成績を残したことについて、改めて讃えられ、受賞者4名の笑顔溢れる式典となりました。

今後もさらなる御活躍を願っております！





GIGA スクール推進プロジェクト

令和4年度は

タブレット端末の「意図した活用」

を目指します!

4・5月の実践の一部を紹介します。



活用例①



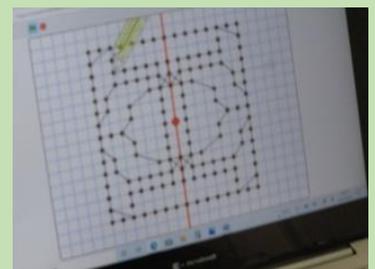
理科で使用したエクセルデータをダウンロードさせて算数でグラフ化する教科横断的な指導を行いました。さらに作成の手順を細かく確認しながら、さまざまなグラフを作成させました。各グラフの特徴を確認してから、本時の折れ線グラフに戻って授業をまとめました。

(袖ヶ浦西小 4年・吉田孝裕先生)

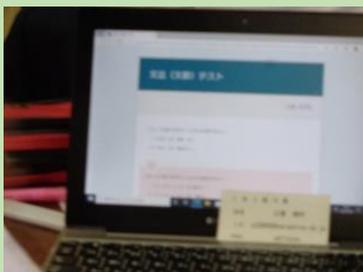
活用例②

スクラッチのWebサイトで、線対称、点対称の点や線が自動で作画されるプログラムを学習しました。背景を図表に設定すると、x軸y軸のある画面となります。スクラッチで自動作画するプログラミングは発展的な問題解決学習となりました。

(秋津小6年・鎌形周先生)



活用例③



本時の授業過程をパワーポイントで提示しました。Forms による国語の学習の確認問題では、回答すると正解不正解や点数が画面に表示され、意欲化につながっていました。指導と評価の一体化を図った授業でした。

(第七中 1年・長岡知里先生)

ICT マイスター認定事業

ICT マイスターは、今年度から新たに実施する取組です。「ICT を効果的に活用した授業改善等に向けた実践・提案を積極的に推進し、各校の中核を担うリーダーの育成」をめざします。すでに十分な能力を有すると認められる18名(右表)を1期生として認定しました。また、各校から推薦を受けた23名が現在2期生認定をめざし活動しています。今後の学校におけるタブレット端末の活用を、積極的に推進することを期待しています。

<ICT マイスター1期生>

第二中学校	中川 朝日	津田沼小学校	小嶋 啓太
第三中学校	中里 彰太 阿比留 孝雄	谷津小学校	宮本 一輝
		鷺沼小学校	倉光 大輔
第四中学校	漆原 陸		宮島 佑太
第五中学校	古川 竜一	袖ヶ浦西小学校	安川 大地
第六中学校	山代 慎也	屋敷小学校	小玉 健太郎
第七中学校	飯野 国男 東川 智喜 永井 健吾	実花小学校	橋本 卓弥
		向山小学校	郡司 寛之
		谷津南小学校	高橋 竜馬

習志野市総合教育センター ～教育相談～

来所相談、訪問相談、メール相談、青少年テレホン相談を行っています。児童生徒、保護者の皆様の心配なこと、不安なこと、それぞれの悩みについて、一緒に考えていきます。

「フレンドあいあい」を知っていますか？

Q1. 「フレンドあいあい」とは何ですか？

「フレンドあいあい」は、いろいろな理由で学校に行くことができない子どもたちのために作られた習志野市の適応指導教室です。

Q2. その教室は何年生の児童生徒が利用できますか？

小学1年生から中学3年生の児童生徒が利用できます。今年度は、小学2年生から中学3年生の児童生徒が利用しています。また、昨年度に利用した児童生徒は42名（見学や体験も含め）おり、市内すべての公立小中学校から来ています。

Q3. 「フレンドあいあい」の教室の様子を教えてください。

とても明るい環境の教室です。教室は下の図のようになっています。

様々なジャンルの本があります

卓球で気分転換!

バルコニー

外で野菜作り

和室で休憩

令和4年度は、千葉大学の学生ボランティア5名もサポートをしています。

用具庫

女子トイレ

男子トイレ

和室

卓球台

学習室

ブレイルーム

キッチン

指導員事務机

Q4. どんな活動をしていますか？

教室では各自が持参した各教科の学習を中心にを行います（午前50分×2回、午後50分×1回）。PC学習や書道教室（月1回）、英語活動（学期1～2回）、小集団活動（会活動やレク等）、体育活動（週1回東部体育館）を行います。また、その他に鹿野山自然体験教室や校外学習も実施しています。

Q5. どんなことを目指して子どもたちの指導・支援を行っていますか？

社会的自立や学校生活への復帰ができるように、児童生徒の自主性や主体性を尊重しながら興味・関心・能力に応じて弾力的な指導・支援を行っています。「フレンドあいあい」には、自分を変えようと一歩踏み出した子どもたちが来ています。保護者や学校と図りながら、焦らず子どもの状況に合った指導・支援を心掛けています。

「わくわく学びランド」3年ぶり開催へ！

新型コロナウイルス感染症予防のため、2年間開催を見送っていた「わくわく学びランド」を6月21日（火）の天文学習をスタートとし、開催いたします。退職校長会の先生方、高校・大学の先生方をお招きし、夏休みの宿題の支援、実験教室、書初め練習等、様々な教科・領域の学習を行う予定です。

習志野市立第四中学校



生徒数 824 名 学級数 27(うち知的特別支援学級1, 自閉症・情緒特別支援学級3)
 学校教育目標 心豊かに 21世紀を たくましく 生き抜く 生徒
 ~20年後、地域や社会を担う人財の育成~

あしたのハーモニーが響くまち
 習志野市

リレー連載

私たちのまち 習志野の学校 No. 12

《学校の歴史》

平成30年に創立50周年を迎えた本校は、昭和44年に第二中学校から分離、独立し、自然に囲まれた東習志野の地に開校いたしました。本市の文教地区として、市総合教育センター、コミュニティーセンター、東部体育館、東習志野こども園、東習志野小学校などの施設に隣接しております。大型マンションの建設に伴い、現在市内で最も生徒数の多い中学校となっています。また、創立以来3年ごとに自主公開を行っており、昨年度は第17次研究発表を本校初のオンデマンド方式で行いました。



昭和44年開校時



平成30年 50周年

50年の時を経て...



来賓玄関前の石碑

「四中魂」とは
 ○学習・行事・部活動に燃える心
 ○勤労をいとわず進んで奉仕する心
 ○礼儀を重んじ感謝する心

すべての生徒・教職員が四中魂を胸に、明るく、元気に、充実した学校生活を送っています。



体育館前の石碑

校歌
 尾形 弘道 作詞
 根本 陽 作曲

未来を築く 習志野に
 白亜の殿堂 そびえたつ
 心ふるわせ 松籟に
 自主と理想を 求めつつ
 おお築こう 我らの四中

《令和3年度に取り組んだ“四中バージョンアップⅠ”》

- ・ハイブリッド運動会(色別対抗+学級対抗 2日間実施)
- ・ハイブリッド授業参観(来校&Teams 配信)
- ・オンライン学活&授業(コロナ対応+学びの保障)
- ・第17次公開研究会(オンデマンド方式)
- ・youtubeを活用した限定配信
 ⇒全校集会、合唱コンクール、卒業式、進路説明会、新入生保護者説明会
- ・動画作成(委員会報告、生徒会選挙、2年スタンプ集会、予餞会)
- ・インフォメーションボードの設置と活用(来賓玄関、旧館1・2階)
- ・Teamsによる「欠席・遅刻連絡」への変更
- ・新型コロナ対策強化(5act<ファイブアクション>+水際対策)
- ・自分らしく生きる(女子用スラックス導入、LGBTQ職員研修)

令和4年度も“四中バージョンアップⅡ”として様々なことに取り組みます!



正門から校舎までのけやき道

今年度もハイブリッド運動会を盛大に開催!

部活動は、全国大会出場経験がある吹奏楽・柔道部・陸上部をはじめ、多くの部が関東大会への出場実績を持っています。



全国マーチング3年連続金賞(H29~R1)



令和3年度関東以上実績

《おわりに》

今年度より学校教育目標をリニューアルいたしました。「心豊かに 21世紀を たくましく 生き抜く 生徒」の育成に向けて、職員一同、既成概念にとらわれない学校教育の推進に努めて参ります。東から習志野に風を吹かせていきます。

みんなの夢がかなう場所

雑草の如く遅しく

～習志野高校ニュース～



昨年の10月に実花小学校の2年生の皆さんが、生活科の学習の一環で習志野高校を訪ねてくれました。その時、引率の先生が「習志野高校は、みんなの夢がかなう場所です!」と紹介してくださいました。後日、生活科の学習で習志野高校について発表する児童から、お手紙で質問が届きました。

どうして習志野高校では夢がかなうのですか?

しばらく考えた後、このように返事をしました。

習志野高校の生徒は、やりたいことや目的をもって入学します。そして、集まった仲間と一緒に頑張るから夢がかなうのです!

今年も320人の新生が入学しました。3年間かけて、自身の夢を実現してくれることを期待しています。その夢のひとつが部活動の大会です。春の県予選を勝ち抜いて、関東大会に進む部活動を紹介します。



生徒会・吹奏楽部・バトン部による壮行会の様子



関東大会へ進出する部活動

- ボクシング部
- 柔道部
- バレーボール部 (男女)
- 体操競技部 (男女)
- 男子バスケットボール部
- 空手道部 (男女)

習高生が夢を叶える姿

楽しみにしていて下さい!

～好きですふるさと習志野～

教育長コラム

「学校に協力しようと予定していたのに…」 「学校行事があるものと考えていたのに…」 これは地域の方からいただいた言葉です。地域の皆様には、いつも学校のことを心配して下さることに感謝しております。だからこそ、コロナ禍における地域との連携については申し訳なく思っています。行事等が中止や形を変える場合は、連絡や丁寧な説明が必要であり、そのことが足らなかったことも事実です。この2年間は感染症対策を徹底する中、学校が閉ざされてしまった感は否めません。学校行事においては、各家庭に対して参加人数を制限するなど、学校としても苦しい選択を迫られました。一方で、本年度は感染症対策を継続しつつも、可能な限り規制を緩和して、これまでの日常に近づけていこうとしています。ただ、コロナ禍以前の形に戻そうとしてみると課題も多く見られます。私自身、2年間開催してこなかった行事や会議に参加してみると「以前とは違うな」「何か足りないな」と感じるが多々あります。再開するにあたっては、入念な打合せや丁寧な説明が必要です。また、実際にお会いして、まさに face-to-face で物事を進めていく必要があります。学校行事など、これまでは何もしなくても地域の方から学校に声をかけていただき、円滑に進んでいたことに気づかされます。ウィズ・コロナだからこそ、学校のことを良く知っているベテランの先生方やOB、地域の方にもお聞きするなど、原点に立ち返って学校と地域との関係を構築していく必要があります。

(教育長 小熊 隆)